

八戸工業大学 同窓会報

第9号

3月・9月発行

八戸工業大学

同窓会本部事務局

TEL:0178-25-8027

FAX:0178-25-6183

蒼峰会（機械同窓会） & 水交会（電気同窓会）

～ 30周年記念 ～

今冬は、例年になく寒さが続きましたが、それもようやく通り越して同窓生の皆様方もほっとしているところでしょうか。

また、三月十八日には本学において平成十七年度学位記授与式が行われ、未来に向かって羽ばたく新進気鋭の卒業生・修了生を送り出すことができました。昭和四十七年開設されてからこれまで培われてきた本学の歩みに、新たなページが加わりました。

さて、本学の同窓生が一同に集まって親交を暖める恒例の『同窓生の集う会』を計画しました。今年度は、機械情報技術学科（平成十三年度に機械工学科から改称）および電子知能システム学科（平成十一年度に電気工学科から電気電子工学科に、平成十五年度から現在の学科名に改称）の一期生が卒業して三十周年の節目の年を迎えることになりました。そこで、八戸工業大学同窓会の最大行事として、蒼峰会（機械同窓会）および水交会（電気同窓会）の三十周年記念行事を行います。同窓会を上げてお祝いしたいと思えます。

左記の要領で行いますので、

多数の皆様方のご参加をお待ちしております。

なお、記念講演会、同窓生の集う会への申し込みは、同封はがきか、もしくはE-mailでお願い致します。

dosokai@hi-tech.ac.jp

一．記念講演会

題目・未定

日時・平成十八年八月五日（土）

十八時～

場所・八戸グランドホテル

二．同窓生の集う会

蒼峰会&水交会

三十周年記念パーティー

講演会に引き続き行います。

日時・平成十八年八月五日（土）

十九時～

場所・八戸グランドホテル

会費

学部卒業一年生

三十歳未満

三十歳以上四十歳未満

四十歳以上

*集う会終了後、独自のクラス会を企画している卒業生は同窓会本部事務局までご一報ください。企画・開催を積極的に支援します。

無料

千円

三千円

五千元

機械および電気の同窓生が大勢集まるぞ！

新卒（平成18年度卒）はなんと会費無料！！

東北・北海道・秋田支部総会

次のとおり各支部で同窓生の集う会が行われます。お近くに在住まいの方は、ご友人をお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。教職員も多数参加させて頂きます。

各支部の集う会への申込方法は、同封葉書かE-mail

(dosokai@hi-tech.ac.jp) でお願致します。

北海道支部総会

日時・平成十八年五月十三日（土）

幹事会・十六時三十分～

総会・十八時三十分～

会場・ホテルオークラ札幌

（札幌市中央区南

一条西五

丁目九

一、TE

LO一

二一～二二二三三）

会費・五千元

東北支部総会

日時・平成十八年七月八日（土）

会場・ホテルリッチフィールド仙台（仙台市青葉区国分町二一～二二）

第一部・講演会

演題・八戸から始まる液晶の世界

講師・関秀廣 教授

（電子知能システム学科）

時間・十七時～十八時

（電子知能システム学科）

時間・十七時～十八時

時間・十七時～十八時

時間・十七時～十八時

時間・十七時～十八時



会場・ホテルオークラ札幌



秋田支部総会

日時・平成十八年六月二十四日

（土）十八時～ 会場・協働大

町ビル（秋田市大町三丁目二

四四）会費・五千元

昨年同様、ゴルフコンペを企画しております。

参加を希望する方は、明珍勲氏

(E-mail: myouchi

n@o.ocn.ne.jp)

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

までご連絡下さい。

電子知能システム学科 水交会ニュース

■研究室探訪

柴田 研究室

近年のインターネットなどの情報通信分野の発展は目覚しく、放送との融合などさらに大きな変革が予想されます。当研究室では、これらのうち主に携帯電話や無線LANに関する分野について検討しています。近年良く耳にするユビキタスという技術は「いつでもどこでも誰とでもコミュニケーションを」という社会の要望に答えるべく開発されておりますが、たとえばワイヤレスでの移動しながらの高速データ伝送にとって、地



形や建物などの影響で電波が途切れるということは非常に大きな問題です。そこで採用されている電波の放射方向を制御する技術などにも課題が残っており、少しでも寄与できるようなアンテナ・システムの実現を目指し、その基礎検討を行っているところです。将来はこれらに利用可能な液晶を用いたデバイスを実用化させたいと考えております。

■OB・OGだより

加賀谷 浩二さん

平成十四年大学院博士前期課程電気電子工学専攻修了(豊田研究室) 現在：新電元工業(株)

出身の北海道から海を越え、八戸で六年間を過ごし、今は埼玉県で働き始め、もうすぐ四年を迎えようとしております。徐々に南下している自分に気付き、更に二十代もあと数年で終わりという現実にも驚かされ、三十、四十代になった頃には果たして自分は何処で何をしているのだろうか、この原稿を書きながら考えています。

前置きはこれくらいにして、私は現在、新電元工業という会社で設計という業務と奮闘中です。どんな仕事をしているかを一言で言いますと、「携帯電話基地局用の電源装置設計」です。携帯電話は当然ながら電話機が移動しますので、無線により通信を行います。無線通信を行うためには、アンテナは勿論の事、電波を送受信する無線機が必要になります。この無線機を動かすために必要な電力変換、供給をする装置を設計しています。皆さんの家の近くやビルの屋上などでアンテナを見かけると思いますが、そういう場所には必ず無線機があり、当然電源も

設置されています。興味を持たれた方は是非探してみてください。

稲葉 和広さん

平成十七年電気電子工学科卒(豊田研究室) 現在：独立行政法人日本原子力研究開発機構東海開発センター

私は現在、主に水道施設の運転維持管理をしています。具体的には川より水を取り、それを浄水場で水処理した後、東海開発センター内や社員寮、社員住宅へ上水、ろ過水及び雑水を給水することで、ろ過水は装置等の冷却水、雑水は消火栓としてそれぞれ使われています。八戸工大で学んだ電気電子工学に関する知識は、装置の制御盤を始め、水を送水するためのポンプの構造理解、それらの点検、整備など、今の仕事で大変役に立っています。一時期、自分の力がまだ足りないこと思う時があり、辛い日々もありました。しかし、八戸工大生の時の多くの経験がそれを乗り越えるきっかけになり、今では充実した日々を過ごしています。同窓生の皆さんも大学生生活で多くのことを自ら学び、そして経験し、これからの基にしてほしいと思います。



設置されています。興味を持たれた方は是非探してみてください。

■学科近況報告

ネットワーキングコンピュータ演習室の情報機器が最新スペックに！

平成十七年夏、電子知能システム学科独自のネットワークコンピュータ演習室の情報機器が最新機種に更新されました。本演習室は四年前に設置され、最新・最速のPC及びプリンターを揃えましたが、今となつては処理速度が遅くなり、学生の満足度も落ち込み始めました。そこで今回の機種更新では、サーバー及びクライアントPCのCPU速度、メモリ量及びハードディスク容量を四年前に比べ数十倍から数百倍に増強し、特に高速なギガビットネットワークにも対応させました。さらに、ネットワーク対応の高速カラーレーザープリンターも四台設置しました。機種変更後は、積極的に自習する学生が増え、学生の利用度は、膨大なデータ容量と高速処理を必要とする知能化技術に関する教育を積極的に取り入れ、本学科の教育内容が益々魅力あるものになるよう努力していきます。

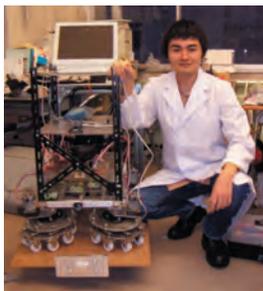


平成十七年夏、電子知能システム学科独自のネットワークコンピュータ演習室の情報機器が最新機種に更新されました。本演習室は四年前に設置され、最新・最速のPC及びプリンターを揃えましたが、今となつては処理速度が遅くなり、学生の満足度も落ち込み始めました。そこで今回の機種更新では、サーバー及びクライアントPCのCPU速度、メモリ量及びハードディスク容量を四年前に比べ数十倍から数百倍に増強し、特に高速なギガビットネットワークにも対応させました。さらに、ネットワーク対応の高速カラーレーザープリンターも四台設置しました。機種変更後は、積極的に自習する学生が増え、学生の利用度は、膨大なデータ容量と高速処理を必要とする知能化技術に関する教育を積極的に取り入れ、本学科の教育内容が益々魅力あるものになるよう努力していきます。

■同窓生としての抱負

渡辺 壮さん

平成十八年電気電子工学科卒
就職先：東日本旅客鉄道株式会社



私の抱負は、物事をより深く知ろうとする姿勢を持つことです。四年生になり、小松崎研究室に配

属され学生生活を過ごす中で、いかに自分が表面的な知識だけで満足していたかに気付いたからです。研究室では、私の知らないことを多く知っている人がいたり、私に知識があると思っけていても、より深い知識を得ている人がいたりすることが数え切れないほどあります。これから、社会は学びの連続ということを実感することが多くなると思いますが、我が八戸工業大学で得ることができた知識を活かし、頑張つて生きていきます。

属され学生生活を過ごす中で、いかに自分が表面的な知識だけで満足していたかに気付いたからです。研究室では、私の知らないことを多く知っている人がいたり、私に知識があると思っけていても、より深い知識を得ている人がいたりすることが数え切れないほどあります。これから、社会は学びの連続ということを実感することが多くなると思いますが、我が八戸工業大学で得ることができた知識を活かし、頑張つて生きていきます。

機械情報技術学科 蒼峰会だより

三十一年に思う

第一回機械科卒業生 下館 政美



八戸が新産都市に指定を受け、工業発展が期待され、国立八戸工

業高等専門学校が昭和三十八年に開校して後、昭和四十七年に大開に八戸工業大学が開学した。当時学生を集めるため、各地の高校に職員がパンフレットを持って走り廻っていました。私も何校かつきあつたが、学生は商品の感じがしました。又学生は、大学をレジャー産業と受け止めたふしがありました。半年が過ぎ、大和田学長と

の飲み会を種差海岸で開く機会があり、マイクロバスに乗り大学を出発しました。もちろん学長のポケットマネーです。当時、機械科の学生は半数が現役ではなく、社会又は他の大学を経験しているので、未成年ではありませんでした。電気も同じような感じだったと思います。ビールを片手に、学長は、『志は高いほうが良い。しかし、大学という場を、学問を通じた人間形成の場と考え、社会に、そして自分に役だつ事を考えろ』と説きました。この事は私にとつて在学中の一番の思い出です。先生方は二極化し、東北大学などから定年でこられた方、若く経験の少ない兄のような方々がおられました。若い先生方は話が通りやす

い一方、採点は厳しいものでした。大学祭の時、私は一人でアーノルドトインビーの現史論東洋陽見思想を開いた。サブとしてヘアの資料を展示しました。三沢基地周辺に米兵連がタマリを作り小田稔を初め有名人も出入りしていた。その機関紙がヘアーでありました。寺下岩蔵氏が何人かを連れて顔を出し、私が説明したが、急に怒り出しました。今の学生は良

く分からないとの事らしいです。当時電気と機械の二学科しかなかったため、電気の授業を覗いて拝聴しても増田先生は怒らなかつたが、質問すると『機械の学生は黙っている』と笑い、ユニークな交流がありました。

時代が変わり少子化の進む現代、大学に求められるのは高度な専門性と共に各科の垣根を低くし、見聞を広くすることが、将来学生の起業意識を高め、地域貢献に繋がるのではないかと思われま

す。私学の八工大は大企業の方に目を向けることも大事ではありませんが、親が中小企業の子弟の将来を託して進学させている事も事実です。そのためには浅学でも幅広い知識が生きることと思います。専門知識を高める上でも他学科の融合が盛んになることは、プラスに働くと思うし社会変化が求められる時代の要求と合致するのではないのでしょうか。

現在私は小さな会社を営んでおりますが、若い技術者達はパソコンを使い、CADで図面を描きます。そのため、会社の倉庫には使われなくなったドラフターや定規が眠っています。CADは変更や修正が楽で時間も早いのですが、フリーハンドで書くことの多い私には違和感があります。役所でも同様で積算に合成単価を使うのですが、条件が多少違ってもそれを使っています。質問するとソフトに無い項目があるから仕方が

無いと言います。フリーハンドで正確さを問うというよりも、CADを使用して正確に近づけるという現実です。工事は条件により変化しますが、積算は目安であり、入札の金額は経験の現場判断です。公共工事が減少し、きつい現在アナログ人間の私でも何とか頑張っています。

八戸工業大学同窓会プライバシーポリシー

八戸工業大学同窓会では、プライバシーポリシーを以下に定め、収集した個人情報について、その取扱いに細心の注意を払いながら、同窓会活動を進めて参ります。保有する個人情報に関して、適用される法令、規範を遵守するとともに、下記項目における取り組みを適宜見直し、継続的改善に努めます。

1. 収集および利用

八戸工業大学同窓会は、会員相互のネットワーク作りや、在学生の就職支援を図るために、卒業生の皆さんの情報を収集します。

収集内容は、卒業年/現住所/現住所の電話番号・E-mail/勤務先名/勤務先の電話番号・E-mail/帰省先住所/帰省先電話番号です。なお、個人情報の公開範囲は、会員の意思を尊重します。

2. 利用目的

八戸工業大学同窓会では、収集した個人情報を以下の利用目的に限り使用します。

- ① 会報および会員名簿の送付、② 同窓会等が主催する行事の案内、③ 会員相互の情報交換、④ 八戸工業大学同窓会を構成する支部、分会等への支援、⑤ 八戸工業大学の教育研究活動への支援、⑥ その他、八戸工業大学同窓会の目的達成のために必要とする業務

3. 第三者提供

八戸工業大学同窓会では、登録いただいた個人情報について、次の場合を除き、上記利用目的の範囲を超えて第三者に開示することはありません。

- ① 会員本人の同意がある場合、② 同窓会名簿の作成等、八戸工業大学同窓会が企業に委託する場合、③ 裁判所や警察等、法令に基づく正式な照会を受けた場合

4. 安全管理措置

八戸工業大学同窓会では、個人情報の不正アクセスやコンピュータウイルス等に対処するセキュリティ対策をはじめ適切な安全管理措置を講じ、卒業生の個人情報の漏えい、紛失、き損、破壊などの防止に努めます。また、活動の性質上、目的の達成に必要な範囲内において個人データの取扱いを委託する場合には、厳正に委託先を選定し、確実な安全管理が行われるよう監督します。会員は、相互に個人情報の重要性を認識し、会員個人の利用目的の範囲を超えて利用できません。また、第三者へ会員名簿および個人情報を提供してはいけません。

5. 開示・訂正・利用停止等の請求

八戸工業大学同窓会では、会員本人からの申し出があった場合に限り、所定の手続きの上で個人情報の開示・訂正・利用停止等の請求に応じますので、下記の相談窓口までお申し出ください。ただし、利用停止請求があった場合、会報の送付他、本会のサービスを受けられなくなる場合があることを予めご了承ください。

6. 相談窓口および管理責任者

八戸工業大学同窓会が利用する個人情報の相談窓口および管理責任者は以下のとおりです。

相談窓口 八戸工業大学同窓会事務局（担当：学生課） 青森県八戸市大字妙字大開 88-1
Tel : 0178-25-8027 Fax : 0178-25-6183

Mail : dosokai@hi-tech.ac.jp
管理責任者 八戸工業大学同窓会会長

環境建設工学科 シビル会通信

■八戸工業大学での 十二年間を振り返って

異分野融合科学研究所

教授 塩井 幸武



私が八戸工業大学にお世話になった経緯は「恩師河上房義先生」のお招きによりです。私は建

設省、東京湾横断道路（株）で三十一年を過ごし、残りの人生を東北地方の発展に賭けようと思っておりましたので、私自身とつても「渡りに船」ということでした。東北地方を良くするには青森県を良くするのが最もインパクトが大きく、また、新産都市「八戸」の工業大学というのが私の理想にピッタリでした。東北の発展を図るには遅いようで、最も早いのが人材の養成でもありません。そうして、希望をもって参りましたところ、私が考えていた以上に良い大学なので本当にうれしく思いまいました。

丁度、来学して1年目に三陸はるか沖地震に遭遇しました。建設省時代には技術基準を作成する事に従事しており、その中で現行の耐震基準の矛盾に苛立ちを持っていたので格好の研究材料にもな

りました。そして、液状化現象のメカニズム、鉄筋コンクリートのせん断補強、鉄筋コンクリート充填鋼管、P R C 構造、既設橋梁の耐震補強工法等の研究を纏めることが出来ました。

また、元の上司の『吉田巖氏』が力を入れておられた津軽海峡大橋も地元なので全面的に取り組むことに致しました。私は元々が基礎や下部構造の専門家で、本四連絡橋をはじめ、日本の大橋梁のほとんどに関与してきたのでやり甲斐のある研究でした。八戸工業大学独自の斜張吊り橋、ボウ・ストリング・アーチなどの新形式橋梁を提案しました。

青森県を良くするには津軽と南部の一体化と協力関係が不可欠です。しかし、津軽と南部の間はあまりにも遠すぎ、八戸から弘前へ行く時間があると仙台まで行くことが出来ます。これでは両者の仲が悪いと言うよりは離れすぎが最大の隘路であることが分かりました。そこで、八戸、弘前を直線で結ぶ『津軽・南部連絡道路』の計画に取り組み、経済的で、すばらしく良い路線を計画することが出来ました。それを十和田土木事務所長さんに説明した時、青森県にとっては八戸・青森間の高規

格道路が最も大事と指摘されました。実際に調査すると青森・八戸間だけでなく、北東北全体にとって極めて重要な環状線を構成することが分かりました。二年間で経済調査も含めて報告書を作ることができ、その余勢を駆って八戸、むつ小川原、新七戸駅を結ぶ高規格道路の計画も取り纏めました。

そのほか、数々の知見が得られた軟弱地盤に関わる研究、支持力等の地盤の性質に関わる研究、東北縦貫道八戸線と八戸港を結ぶ自動車専用道路の計画、市民病院跡地利用計画なども実施しました。

これらの研究の主体は八戸工業大学の学生諸君でした。大学は『教育』と『研究』の場であると言われます。教育を通じて人材を育て、研究を通じて問題を解決し、将来につながる知見を得るところであります。すなわち、大学は社会の進歩を支える原動力であります。その点で、私と一緒に過ごしてきた学生諸君の研究業績は日本だけではなく、世界に多くの知見を発信しています。こういう機会に恵まれましたことを心より感謝しております。

私は十二年間、研究所専任教授で、土木工学科、環境建設工学科には併任という形で授業を担当させてもらいましたが、私の持つ知識、経験が学生諸君に十分に伝えられたか、どうか甚だ心許な

い思いであります。しかし、この間、私の人生の中で最も充実した時間を皆さんと共有させてもらいましたことに厚く御礼を申し上げます。

塩井幸武先生の 最終講義と囲む会

塩井幸武先生が本年三月をもつてご退職されることになり、先生の最終講義が平成十八年一月二十三日（月）、八戸工業大学を会場に開催されました。最終講義は、「私の研究生活における過去・現在・未来」と題してご講演され、これまでの長年の社会あるいは研究における活動の一端を述べられました。これから土木技術者として歩んでいく上での心構えや方向性を示唆した貴重な内容であり、特に聴講した多数の学生や卒業生



にとつて大きなメッセージとなりました。

引き続き夕刻より、市内に会場を移し先生を囲む会が開催されました。先生を懐かしむ多くの卒業生や大学関係者に囲まれたが、会は終始和やかに進みました。

寄稿文にもありますように塩井先生は、建設省（現 国土交通省）時代から我が国の数多くの大規模社会基盤施設のプロジェクに係り、その幅広いご経験と知識に基づいて多くの教育・研究業績を残されています。同窓会としても、先生の永年のご活躍と、本学の教育研究活動へのご尽力に対し厚く感謝申し上げます。今後とも機会があれば、ぜひ気軽に同窓会に参加し、後進のご指導をお願いいたします。心よりお待ちしております。

なお、塩井幸武先生は（社）地盤工学会東北支部の創立五十周年を記念する行事（平成十七年十月二十七日）の中で、先生のこれまでのご功績を讃へ同支部から特別表彰を受けました。併せてお祝い申し上げます。

土工協「百万人の市民見学会」に参加

日本土木工業協会が主催する「百万人の市民見学会」が平成十七年十月十七日（土）、盛岡市内で建設が進む梁川ダム建設一般国道106号9号橋上部架設工事の現場で開催された。見学会には

環境建設工学科および大学院土木工学専攻の学生約四十名が参加した。9号橋はダムサイト付近で梁川と合流する根田茂川を横断する標高三百mの溪谷部に位置する。厳しい架橋地点の中で、経済性、構造的、施工性に優れる二径間PC連続エクストラードス箱桁橋による橋梁形式を採用している。見学会に参加した学生は就職を来春にひかえた四年生と大学院生であったことから、橋梁の施工や構造に関する技術についてより実践的



な質問をしていた。また、最新技術を活用した作業現場を見て「授業で学んだ土木技術をより深く理解する良い機会になった」との声が多く聞かれた。

エネルギー工学科 OB会通信

「エネルギー工学科OB会」 名称変更のお知らせ

エネルギー工学科を発展的に改組し、新学科となった生物環境化学工学科初の卒業式（平成十八年三月）を迎えるに当たり、同OB会では卒業する学生も交えた話し合いを続けてきた結果、平成十七年度の幹事会で名称変更することを決定いたしました。

新しい会の名称は、**「八戸工業大学工学匠会」**（平成十八年四月一日より）です。

この会は、エネルギー工学科、および生物環境化学工学科を卒業した皆さんの親睦を深めることを目的としたものです。

今後とも、皆様のご協力とご理解をお願いいたします。

OBによる就職講演会開催

現在、教員として八戸市内の中学校に勤務する広住先生（エネルギー工学科第十一期生）に生物環境化学工学科三年生を対象とした就職講演会（OB講演会）を行っていただきました。

学生時代に活動していたボランティアで子供たちと接して体験的な学習の大切さについて考えることが多く、中学校教員への道を選んだこと等についてお話しがありました。他にも、学生時代に自転車で全国各地をまわったこと（現在も続けているそうです）や、国際ジュニアロボコンの指導内容、中学生からの質問に対してテレビアニメを例題に科学的な説明を行っていること等、とても興味深い

内容の講演でした。

講じていた学生は、就職活動・仕事に対する意識がより高くなり、講演会終了後に何人もの学生が広住先生を囲み質問するなど、有意義な講演会となりました。

『大学院での 研究活動を通じて』

八戸工業大学大学院 工学研究科
機械システム工学専攻 博士後期
課程 吉田 朋央

卒業生の皆さん、お元気ですか。エネルギー工学科第十六期生の吉田朋央と申します。

私は、平成十三年にエネルギー工学科を卒業し、その後、本学の大学院「機械システム工学専攻」へと進学しました。今春、大学院を修了し、四月からは独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）に勤務することになりました。私は、大学院の博士課程を経ましたので、学部時代も含めると本学には九年間も在籍していたことになります。今振り返ってみると、そのうちの六年間は自分の好きな研究に専念することが出来たので、とても充実した有意義な九年間であったと感じています。

話は高校時代まで遡りますが、私が通っていた高校の担任の先生は、毎月、何冊かの科学雑誌を教室に置いてくれました。私は、これらの雑誌に掲載されていた「宇宙太陽光発電」というとてもSF

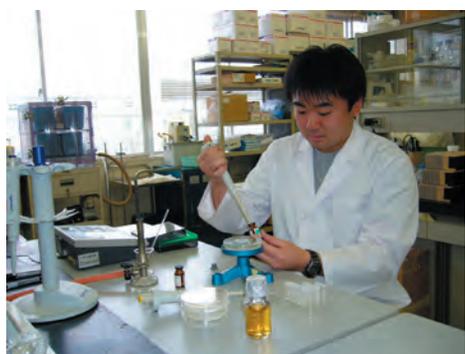
チックで夢のある研究に刺激されエネルギー工学科へ進学したことを記憶しています。それから時が経ち、実際に私が魅了され、これまで続けてきた研究は「ホタテ貝殻の機能性に関する研究」でありました。当時、私が目指していた電気・機械系の研究とは全く対照的な生物・化学系の研究でありますから、巡り合わせとは本当に不思議なものであると感じています。実は、私がこのテーマを選択した背景にも高校時代に出会った科学雑誌の影響がありました。そして、この選択は私にとって大きなターニングポイントでもありました。本研究は、小山先生を中心とした複数の先生方と企業との産学協同研究でありましたので、小山研究室に所属しながらも微生物が専門である奥田先生や化学が専門である小比類巻先生など多岐の分野にわたる先生方のアドバイスを頂きながら研究を進める

ことが出来ました。また、様々な企業の方々と接する機会にも恵まれ、他の研究室では出来ない貴重な体験も数多く経験することが出来ました。

四月から勤務することになるNEDOは、新エネルギー分野を中心とした研究開発とその普及を推進する中核的実施機関であります。これは、当初、私が目指していた元の道に戻る形となります。また、NEDOには環境技術やバイオテクノロジー、機械システム分野など、これまでの経験を活かせるような部門も多く、ここでも巡り合わせの不思議さを感じています。今後は、日本が豊かな社会を持続し更なる科学技術立国になれるよう微力ながらも努力を続けていきたいと思えます。

「第二十三回知的財産戦略 専門調査会」で研究活動を 発表

小山信次教授が「知的財産戦略専門調査会」から招聘を受け、霞ヶ関の中央合同庁舎で、産学共同研究の「ホタテ貝殻の有効利用」についてプレゼンを行った。今回の招聘は、同調査会が地方活性化の産学共同研究の成功例として、全国五十の候補から二つ選ばれたうちのひとつで、小山教授は、研究プロジェクトの概要と特許申請などの成果を説明し、研究活動と知財活動に対して高い評価を受けた。



システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

◆人工知能関連の国際会議
ICMLA2005, ICIT2005,
TAI2005に参加して

高橋 良英

高橋良英研究室では、巡回セールスマン問題 (TSP) において、より短い巡回路を効率的に探索する遺伝的アルゴリズム (GAs) の新しい手法として、「遺伝子交叉オペレータを任意の時点で交代可能な遺伝子交叉オペレータ交代法 (XO法)」を、大学院生の研究テーマとして、研究してきました。TSPは「n個の都市を一回ずつ辿って出発都市に戻ってくる巡回路のうち最短巡回路を見つけよ」という問題で、組み合わせ

湾の高雄大学で IEEB CIS の台湾支部主催で開催された人工知能関連国際会議 TAI2005、(2) 十二月十五日〜十七日に米国ロサンゼルスで IEEB SMC 主催で開催された国際機械学習法会議 ICMLA2005、(3) 十二月二十八日〜三十日にバンングラデシユの Islamic University of Technology (IUT) で IUT が主催した国際コンピュータ情報技術会議 ICIT2005 に投稿したところ、三件とも採録されました。添付の写真は、各国際会議に参加した時の写真です。台湾における TAI2005 での高雄大学の学生達、バンングラデシユにおける ICIT2005 でのイスラム工科大学 (IUT) の学生達、ICMLA2005 のプログラム委員で、かつソフトウェア品質評価分野で著名な Florida Atlantic University の T. M.

Khostgofaar 教授と撮った写真です。自分の仮説 (アイデア) が、世界で認められて、大変嬉しく思いました。高橋良英研究室では本研究成果をきっかけにして、TSP, LB 等に登録された他の巡回セールスマン問題への実験空間の拡張、ナップザック問題等他の最適化問題への拡張、M. Dorigo 等の Ant Colony 最適化手法等との比較評価、ビジネスモデルへの拡張等を計画します。



◆資格試験合格者

本学科では資格試験を受験する学生のために、授業の中や特別講義で受験の支援を毎年行ってきた。平成十七年度も以下に示すように多くの学生が資格試験に合格しました。

情報処理技術者試験

- ・ソフトウェア開発技術者試験
一戸 俊介 (三年生)、榎本 匡将 (四年生)
- ・テクニカルエンジニア (ネットワーク) 試験
榎本 匡将 (四年生)

・初級システム

アドミニストレータ試験

- 萩原 道昭 (二年生)、石田 鷹介 (三年生)、大宮 貴芳 (四年生)、柳 沢 幸伸 (四年生)、長尾 幸治 (二年生)、三澤 恵子 (二年生)

・シスコ技術者認定

CCNA-INTRO 試験

- 榎本 匡将 (四年生)、大宮 孝芳 (四年生)、角田 亮 (四年生)、三浦 晃一郎 (四年生)

画像処理技能検定

CGエンジニア検定

CGクリエイター検定三級

・初級システム

- 相場 正彦 (二年生)、石岡 克織 (二年生)、石ヶ森 和美 (二年生)、白 坂 博直 (二年生)、中橋 博文 (二年生)、守屋 勇輝 (二年生)、田村 貴宏 (三年生)、松田 拓磨 (四年生)、沼生 守宏 (二年生)、泉山 久子 (三年生)、鈴木 知孝 (三年生)、鹿野 圭也 (三年生)、吉田 慶太 (二年生)、生駒 俊 (三年生)、古川 僚 太郎 (二年生)、太田 友洋 (二年生)、佐藤 宏喜 (三年生)、柳沢 桂子 (二年生)

・CGエンジニア検定

CG部門二級

- 鈴木 知孝 (三年生)、萩原 道昭 (二年生)、後藤 想太 (二年生)

・マルチメディア検定二級

石岡 克織 (二年生)

◆情報教育懇談会を開催

システム情報工学科では教育内容を改善して行くために、毎年一回、卒業生や企業の皆様にアンケート調査などのご協力をお願いしています。またこれと並行して、地元企業の経営に係わる方々に評価していただく場として、情報教育懇談会を開催しています。平成十七年度は、去る十一月十八日八戸市内の五社に参加いただいて、サクサシステムエンジニアリング (株) 池澤昭博社長の司会のもとに、貴重な意見をいただくことができました。さっそく皆様のアンケート調査とともに次年度からの教育に反映させて参ります。システム



**建築工学専攻、
中村隼人君 学位取得**

この度、中世の湊町を対象とした都市復元研究、「掘立柱建物跡から復元した中世港湾都市十三湊の都市構造に関する研究」によって、博士（工学）の学位をいただいた。

建築工学科 拓北会

きましたので御報告させていただきます。

私は平成十四年四月より本学博士後期課程に入学し、高島成侑先生の温かい御指導の下、中世港湾都市の復元研究を行ってまいりました。今回研究対象に選択した十三湊（五所川原市）は、現在も継続的な学術発掘が進められており、遺物研究や文献研究の成果から中世を代表する港湾都市という評価を受けていました。しかしその一方で同遺跡では物証を論拠とした都市空間の復元が行われておらず、発掘遺構に基づいた都市復元の必要性が問われていました。今回の研究では発掘調査によって得られた遺構群から当時の構築物（建物跡、柵跡、井戸跡、町割、道割）を復元し、往時の都市空間

情報工学科で学んで良かった、また卒業生を採用して良かったと思っていただけです。これからもうこうした学外評価による教育改善に継続して努めますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。（学科長 栗原伸夫）

◆「暮らしを変えるユビキタス社会」発行について
システム情報工学科では、書籍：「暮らしを変えるユビキタス社会」を、平成十八年一月、出版しました。



た。学科の教員十三名が、各自テーマずつ、ユビキタス社会に関する最新の研究を、家庭のお母さんにも分かるように紹介したものです。（苦米地記）

の復元を行いました。復元の結果、盛期の十三湊は都市西部を港湾施設、東部を居住区とする都市空間を持つていたことが明らかになりました。またその都市機能は消費地としての機能よりも、蝦夷地交易の補給港としての機能や、岩木川水運を用いた津軽平野内陸部への物資の中継点としての機能が優越した特殊な港湾都市であることが明らかになりました。

発掘中の遺跡を対象とした復元という研究の性質上、博士後期課程入学してから大半の期間は学内におらず、発掘現場である五所川原市（旧市浦村）や整理現場である青森市に宿を構え生活していました。津軽で過ごした二年間で研究に関する知識の他、期せずして津軽弁の語彙も得ることができました（ちよつとした語学留学でした）。

一見しただけでは当時の状況など伺い知ることのできない発掘遺構から、往時の都市空間を復元する作業は非常に根気の要るものですが、振り返ってみれば夢中で柱穴を拾い続けた津軽での二年間も良い思い出です。

論文の審査においては主査を務めていただいた坂本磐雄先生、月館敏栄先生をはじめ、熊谷浩二先生、渡辺正朋先生、橋本典久先生には多くの時間を割いていただきました。私の下らない拘りで正規の日程内に課程を終了することが



行いました。発表会には一般の建築技術者などからの参加もあり、各発表に質疑が交わされています。

**第三回 技術研究報告会
（秋季）開催**

大学での研究成果を報告し、地域への貢献を行うことを目的に、第三回の八戸工業大学大学院建築工学専攻技術研究報告会が十二月六日に行われました。報告会では、一編目に滝田貢教授が「低層RC建物および周辺地盤の立体振動特性について」と題して一九八七年より実施している高密度地震動観測の結果について報告、二編目に月館敏栄教授が「景観と雪対策から考える雪国の街並・住環境整備について」と題して青森県の雪対策を始めとした防災やユニバーサルデザインの観点からの雪国の街並・住環境整備の課題について報告を行いました。三編目に渡辺正朋教授が「景観と雪対策から考える雪国の街並・住環境整備について」と題し、北東北の建築活動において活性化が求められる重要な課題である、木造建築の改修・再生について報告を

二級建築士に合格

本年度行われた二級建築士試験に、昨年度本学科を卒業し現在本学大学院建築工学専攻に進学した田名部加織さんが合格しました。今年度の二級建築士試験は合格率二十三・三％という、大変難しいものとなっています。最近資格取得にチャレンジする在学生・卒業生も多く、二級建築士にも多くの卒業生がチャレンジしました。そんななか、田名部さんは学科試験、実技試験を経て見事合格を勝ち取りました。身近な先輩の建築士試験合格は在学生にも良い刺激となっています。

仲道茂生工師に中央職業能力開発協会から感謝状



十一月十六日、東京都港区の明治記念館において平成十七年度

中央職業能力開発関係の表彰式が行われ、本学工作技術センターの仲道茂生工師に「中央職業能力開発協会会長感謝状」が贈られた。

仲道工師は、長年国家資格である技能検定の委員を務め、本学では機械情報技術学科の機械工作実習で学生達を指導、技能士の取得に力を尽くしてきた。今回の受賞は、こうした仲道工師の工作技術の普及に対する貢献が認められたもので、青森県職業能力開発協会の推薦により、技能検定事業関係では県内でただ一人感謝状が贈られた。

北海道支部道南分会 発足

平成十七年五月二十八日(土)開催された同窓会理事会において、北海道支部の下部組織として道南分会の設置が了承されました。それに伴い、去る十一月二十六日(土)北海道函館市において発足記念懇親会が行われました。卒業生は十四名の参加があり、大学から福士憲一・教授と阿波稔・助教の二名が出席しました。初代分会長に就任した松平正幸氏

(エネルギー工学科・昭和六十三年卒)の挨拶の後、福士先生が大学の近況を報告しました。函館地区で開催された初めての同窓会であることから、今回初参加となる卒業生も多く、大きく変化した大学の現況に熱心に耳を傾けていました。懇親会は、函館の酒肴に舌鼓をうちながら同窓生相互に旧交を深め、さらに大学教職員との和やかに意義のある情報交換の場となりました。

北海道支部はエリアも広く会員数も多いことから、よりきめ細かな活動を行うために積極的に分会の設置を進めています。昨年度は、帯広・釧路地区の同窓生が中心となり道東分会(十勝会)を立ち上げました。今後、同窓会組織を充実させ、会をさらに発展させるためには、クラス会や職場会なども含めたこのような小さな会を沢山設置し、同窓生がそれぞれの目的や意識の中で参加しやすい形を作ることが必要と感じました。

東北支部会員有志が情報メディアセンター 建築へ向けて寄付

平成十七年十月二十九日に開催された八戸工業大学同窓会理事会において、東北支部会員有志より情報メディアセンター建築への支援金として集められた二十万円が、奈良坂東北支部長から野田教授(同窓会副事務局長)に贈呈された。後日、野田教授より高橋学長、増田副学長へ手渡された。

高橋学長から同窓生の大学への活発的な支援に対して、心から敬服するとともに、感謝致しますと御礼の言葉があつた。



同窓生のご子女、弟妹の入学金減免

本学の良き理解者であり最大の支援者である同窓生のご要望をもとに、ご父母の入学時の経済的ご負担を軽減すべく、同窓生のご子女、弟妹を対象に入学金の減免措置を実施しております。

同窓生各位の身近な方に八戸工業大学をお勧めして頂きたく、この減免措置を実施するものであり、是非、ご活用賜りますようお願い申し上げます。

対象・同窓生のご子女、弟妹

減免額・十七万五千元

お問い合わせ先・入試課

アドミッション・オフィス

電話 〇一七八―二五―八〇〇〇 (直通)

退職教員

平成十八年三月三十一日付

で、次の方が退職されます。これまで、厚いご指導ありがとうございました。

菅原 章教授 (機械情報技術学科) 平成三年五月から勤務。

塩井幸武教授 (異分野融合科学研究所) 平成六年四月から勤務。

佐藤 久講師 (環境建設工学科) 平成十二年四月から勤務。

今後のご健勝とご活躍を祈念いたします。

八戸工業大学地域情報メディアセンター 建設に向けてなご一層のご理解、ご協力を

「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設資金の一部として、卒業生を初め関係各位から、貴重な厚志を御寄せ戴き誠に有り難うございます。この事業を実現のためには、皆様からの一層のご理解、ご協力が不可欠であります。今後とも何とぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 高橋 燦吉
同窓会会長 白川 直人

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科, 電子知能システム学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058 (8030)	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科, 生物環境化学工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp
システム情報工学科 (システム情報工学科事務室)	0178-25-8080	dosokai-i@hi-tech.ac.jp